

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム すずらん・らいらく(ユニット名:すずらん)	評価実施年月日	平成21年12月20日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成21年12月20日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	利用者が住み慣れた地域のなかで暮らし、楽しみと笑顔で生活できることを目標とし、ケアに努めている。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	利用者・職員の目の届くところに掲示し、周知しやすいようにしている。又、定期的に職員会議の議題とし、話し合い理念の実践に向け取り組んでおり、統一したケアが行えるよう申し送りを確実にやっている。		理念を深く理解し、個々の自立支援にむけ具体的関わりを目標に取り組んでいきたい
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	入居時の説明は十分に時間をかけ、理解して頂けるよう確認しながら行っており家族に同意を頂いている。又、運営推進会議を定期的に開催し、理解して頂けるよう説明している。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	外気浴時、顔見知りの方も増え、声掛け合いやすい関係が出来ており、お花等頂き、利用者の喜びにつながっている。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	散歩で顔見知りの関係になったり、近隣住民が足の運びやすい環境となるよう、行事の計画をたて参加の呼びかけをしている。		自治会の活動にも積極的に参加出来るよう、自治会の交流を深めることを目標にしていきたい。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	避難訓練等、積極的に呼びかけ、近隣の方に参加して頂き、防災活動に協力している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		<p>制度に詳しい専従ケアマネと学習の機会を設け、知識を学ぶ事に取り組んでいきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		<p>職員のストレスが引き金にならないよう確認し、安全に配慮出来るよう、今後の継続に向け、職員の意識を更に高めたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居説明以外のリスクがあった場合、家族からの率直な意見・苦情、介護相談員の視点等、直接受け入れ、職員全体で話し合い、解決に向け努力している。		苦情・意見の言える関係を確立していくための雰囲気作りに力を入れていきたい。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月のお便りに近況報告し、体調の変化等については、来所時又は電話で連絡し、現状をお伝えしている。又、ケア担当者との関係の構築にも努めている。金銭の管理については台帳に記載し毎月明細書を家族に送付している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	来訪時、ご家族としての意見、要望、苦情を聞き取るよう心掛けており、出された要望については職員会議に報告し、必ず話し合いをしており、改善にむけて努力している。		苦情はすべて、良い施設となるべき改善すべき点と受け止め、職員と共に開けたグループホームを目指していきたい。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の職員会議を職員主体で行い、意見の出しやすい雰囲気の中で、意見・提案を確認し、即日会議録で必ず周知出来るよう取り組んでいる。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	緊急の受診・行事・利用者の要望に添えるよう、シフトの調整を行っている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動や離職については施設長、管理者、職員は充分話し合い、利用者の混乱を最小限になるよう心掛け配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人内事業所の定期的な報告会・伝達会・経験者による介助学習を行い、自己研磨に努めている。又研修会の報告を職員会議で行い、伝達している。</p>	<p>職員の学習要望を積極的に出してもらい、学習能力の向上に努めたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>管内の協議会に参加し、情報の共有・必要に応じて実践交換研修を行い、意欲向上に努めている。改善すべき項目については職員会議で話し合っている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>事業所の親睦会を有効利用し、個人的な悩みや困っていることを話せる雰囲気作りを行っている。又、管理者は職員の話聞くよう心掛けている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>毎月の職員会議、法人内の学習会で、職員の資格取得の奨励・援助、必要に応じ研修会の参加を勧めていく。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>相談を受けた時点で必要に応じ訪問、生活状況の情報収集に努め、環境の変化による不安の軽減に努めている。又家族の情報に基づき本人の心地良い環境を整えるよう、努力している。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>事前訪問の際に家族・本人より困っていること・悩んでいることを充分聞き、問題解決にむけ共に話し合うよう努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族が必要としていることを充分聞き入れ、事業所としての出来る限りの支援を行っている。		必要に応じて、相談窓口の提供・ケアマネの情報も積極的に行うよう心掛ける。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	事業所を見学して頂いたり、他利用者の関わり等、本人の様子を確認しながら、本人の気持ちに配慮した対応を心がけている。又職員も情報収集、共有に努め不安のないようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	関わりの中より、得意な事を聞き出し、心理的負担の軽減として、自尊心を傷つけないこと、又言動の意識的配慮を心掛けている。又人生経験豊かに送られてきたことを受け止め、教えて頂くことを基本としている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	理念を意識し、家族の思い、過去の生活歴を職員が理解し、本人の状況を把握し相談、共に共感出来るよう心掛けている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	来所時、自室又は、居間にて気軽に話せるよう努めている。又本人の外出支援に対応時の調整を行っている。本人・家族の気持ちに配慮し、より良い関係を築けるよう支援している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	地域の施設を有効利用し、本人の要望に出来る限り添ったり、知人が来訪しやすいよう配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	個々の個性が強くとらブル発生時は仲介に入り、関係性が円滑にいくよう職員間で情報の共有に努め、双方の要望に添うよう努めている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院退去された方には、定期的なお見舞いを心掛けている。サービス終了後もイベントの参加よびかけを意識的に行っており、関係性の継続を心掛けている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の生活スタイルを尊重し、要望に添った対応を行っている。又本人の表情から気持ちのくみ取りをし、精神の安定を図っている。		ケア担当が一番の理解者で有ること・ご家族との連携に努める。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族より生活歴、情報の収集に努め、職員間で共有し、本人が生活しやすいよう支援している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個々の一日の流れは出来ており、本人の様子、表情から状態を把握できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護支援専門員の指導により、ケア担当がアセスメントを行い、カンファレンスで活発的なモニタリングし意見を基に具体的なケア計画を立てている。又家族の意見、想いも反映できるように来訪時の情報収集を心がけている。		利用者の立場に立った思いを常に持ち、職員としての意識向上に努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	心身の状況に合わせケアの内容が適切か職員で話し合い、本人・ご家族の希望に添っているか検討している。状態の変化が有るときは都度、検討し直している。		状態の変化を具体的に分析し、情報をまとめていくことをケア担当者が意識的に行えるようにしていく。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	心身に変化が見られるときは、個別記入し、適切な申し送りを心掛けています。介護計画もその都度、見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	通院・送迎・他事業所の行事参加・等個々の要望に添っている。又認知症通所も事業の一環として行っており、多機能性を生かした支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	絵本の会・慰問等積極的に参加している。年2回の消火訓練では近隣住民の参加を実施を行っている、又、移動図書館巡回バスを利用し、本を読む機会を設けている。		近隣の高齢者にも参加して頂けるよう働きかけていく。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	関連事業所の協力を得ながら、リハビリ等本人の希望にこたえている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	毎月定例会議に参加し、地域の情報を共有している。又相談内容について困難と思われること等連絡しやすい関係となっている。		困難事例が生じた場合は相談解決に向け、担当部署の協力を頂けるよう積極的に関わりを持っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	法人内の医療連携があり往診を受けている。状態の変化についても細かく報告し、適切な指示を頂いている。休日については連絡のとりやすい体制が出来ている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症状について状態の変化・著しい低下が見られたが場合、往診医と連携し、必要に応じ受診等の説明を行っている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	気軽に相談出来る関係が出来ており、細かな医療相談が出来、職員の安心感、信頼を受けている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	生活情報の提供。家族と入院中の情報の共有を行う。又、入院環境の変化で認知症状が進行しないよう、状態に応じ入院先の医療従事者と相談できるよう心掛けている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	身体状況を常に報告し不安のないよう働き掛けている。必要に応じ、主治医の説明を行っている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	往診医療との連携を図りながら介護職として、出来る支援に努めている。家族には、状態の変化時主治医から早期に伝えてもらっている。又職員の精神的負担に考慮し連絡体制を充分話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>本人のなじみの住環境となるよう、家族から情報を頂き、混乱の無い様協力を頂いている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>個々の尊厳、羞恥心にも配慮している。又記録等、職員が管理しており、プライバシーは守られている。</p>		
<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人の要望に合わせて行動し本人の出来る力を見守っている。服や使いたい物等、本人が選択しやすいよう配慮している。</p>		<p>本人の意志尊重を個々の職員が更に意識し、職員の都合にならないように更に取り組んでいく。</p>
<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>本人の要望がある時は、その日の勤務者で対応したり、訴えの出来ない利用者については、思いをくみ取る対応を心掛けている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>訪問美容を定期的に依頼し、なじみの関係が出来ており、訪問を楽しみにしている。又化粧を時々行うことで、生き生きした表情が見られている。</p>		
<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>調理の段階より、行える人については積極的に働きかけている。食事内容についても、咀嚼の状態に合わせ、個々の食事形態に添った対応をしている。本人のリクエストも組み込んでいる。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	個々の嗜好を職員は把握しており、食欲低下時は食欲向上に向け、工夫をしている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	日々の排泄パターンは職員が把握しており、個々に合わせた時間誘導や牛乳等、食事内容も合わせ、スムーズな排泄を行えるようチェックしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人の希望時に合わせ入浴して頂けるよう支援している。又入浴に対し、定期的に対応できない場合は、清潔保持のため清拭を行っている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	昼寝や睡眠は個々の要望に合わせており、眠れない状態が続いている方については、日中の活動、身体状況、心理面で問題なかったか原因を職員で確認しながら、休息に向け対応している。不眠時は温かい飲み物等、提供し安眠の促しを行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	牛乳パック切りや台拭き、茶碗洗い等個々に声掛けし一人一人の役目としての意識をして頂いている。得意なことは教えて頂き、必ず感謝の言葉を伝えるように心掛けている。出来ることは率先し行って頂いている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	希望者には毎月お小遣い・給料として渡し満足が得られている。自己管理できる人は、買い物、外食等自分の財布から支払いを行っており、楽しみの一つとなっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	自宅訪問、外食、ドライブ等、希望に添うよう配慮している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	季節に応じてドライブ、イベントの参加等、外出の機会を設けたり、行事の計画を立て家族にもお誘いしている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	電話、手紙、年賀状等、希望に添った対応を行っている。毎月お便りを発行し、暮らしの写真を送ることで家族に安心感を持って頂いている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも訪ねて頂けるよう、訪問時は和室、自室と気兼ねなく会話が出来るようくつろぎのスペースを確保している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	利用者の夜間の行動で危険と思われる状態の時は、家族の承諾を頂き、ベットの柵を使用対応し、状態を都度報告している。又使用しない状態時は速やかに解除し、ケアに努めている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	立地的な問題(近くに沼があり危険箇所が有る)社会的問題(外部からの侵略を防ぐ)等安全面での考慮をしている。解錠時は利用者の行動に配慮している。		家族の同意を得ているが、解錠に向け更に職員間で検討していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は行動制限せず、さりげなく行動の見守りを行っている。夜間は定時巡回を行っている。自室で過ごしている利用者については様子観察を都度させて頂いている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	管理出来る方には定期的に確認をし、管理困難な方には要望時提供し見守り確認を行っている。職員は、注意の必要な物は職員で検討し、引き継ぎで徹底出来るように対応している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	リスクが高い場合家族と相談し、都度検討している。ヒヤリハットを記録し、情報の共有に努め事故防止に取り組んでいる。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	個々のリスクについて定期的に確認している。状態に応じ対策を職員間で話し合っている。急変の対応を経験していない職員もあり、緊急時マニュアルを用意している。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	防火管理者がおり、年2回、避難訓練を利用者と共に行い、利用者の安全に暮らすための意識を持っている。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	リスクの高い方(転倒含む)について本人の状態を主治医より家族に説明し、家族と相談しながら安全に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	主治医、看護師の往診を受けており、個別の体調管理に努めている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	主治医の指示に従い、薬の変更時は職員が周知できる様、業務日誌に記載し連携が図られている。薬の処方箋をファイルし確認しやすいようにしている。服薬については確実に飲み込むまで見守っている。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	適度な運動と、牛乳、プルーンの提供と水分飲用に努め、自然排便出来るように努めている。又、管理栄養士のメニューに繊維質の食材を取り入れている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後の口腔ケアに努めているが、うがいの出来ない方には水分を多く飲用対応している。口腔ケア用具は個別に用意し、汚れに応じ使い分けている。義歯の管理が出来ない利用者については洗浄し、管理している。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	管理栄養士の指導により献立が作成されており、燕下困難や咀嚼に問題のある方については調理で工夫し支援している。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防接種の早期取り組み、職員の自己管理の徹底、出勤後のうがい、手洗いの励行、面会時の消毒、共用スペースの消毒を行っている。感染予防マニュアルも用意し、周知出来るようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	調理用具の消毒、食材の調達は週2回、行きつけの店舗で新鮮な食料を購入し、安全な食事提供を心掛けている。痛みやすい食材については早めに使い、在庫を置かないようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	足を運んでもらえるよう、玄関先にお花を置き温かい雰囲気を作っている。又イルミネーション飾り、ベンチを置いたり工夫している。		近所の方も来て頂きやすい様、声掛けをしていく。
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	季節に合わせて装飾を変えたり、季節の花を生け落ち着く雰囲気を作っているが、異食行為の見られる利用者があり、混乱しないように工夫している。又、職員も環境と意識し対応に努めている。		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	空間スペースを利用し、外の景色を楽しめるよう、いす、ソファを置いている。		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	家族と相談し、自宅で使用していた家具、手作りの品を持ち込まれ、居心地の良い様工夫をしている。自宅にいた時の趣味等居室に掲示したり、日常生活が心地よく暮らせるようにしている。		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	湿度、温度の管理調整を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>本人の要望に添うことで安心した暮らしの支援を行っている。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>業務が優先とならないよう心掛けている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>体調やその日の状態に合わせて対応している。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>本人の出来ること出来ない事の見極めをし、出来ない事の支援をしている。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>自立の方は出来ており、介助の方は体調に考慮している。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>医療の連携が取れており、利用者の要望に答えている。</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>細やかな観察を心がけており、「利用者の要望に答えている。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p> <p>面会、運営推進会議等、電話連絡により情報の共有に努めている。又話のしやすい雰囲気を作るよう心掛けている。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>地域の方が運びやすい様更に努力していく事を目指します。</p>

サービスの成果に関する項目		取り組みの成果	
項目			
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	家族の関係は、定期的に行うことで信頼関係が出来ている。地域住民との関係性は行事等参加できる機会を設け、これからも関わりを持てるように努力していく。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	目的意識を持っており、積極的に関わる事で利用者とお過ごし時間を楽しみに思っている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	利用者の思いを受け止め努力している。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	本人家族との良好な信頼関係を築く事で本人家族の要望を反映させ介護計画に基づいた援助を行っています。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
 個々の対応を意識しており、楽しく暮らす支援を心掛けています。通所利用者様が来て頂く事で同世代の交流もできており、余暇活動を中心に明るい雰囲気を提供しています。
 個々の身体維持に努め、安心出来る生活を職員一体となり取り組んでいます。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームすずらん らいらっく	評価実施年月日	平成21年12月15日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成21年12月15日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	利用者が住みなれた地域の中で、一緒に暮らし楽しみのある生活を送れるよう、ケアに努めている。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ミーティングにて再確認し、統一したケアが行なえるよう取り組んでいる。また、共有スペースに理念を掲示し、いつでも確認できるようにしている。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	来所時にはいつでも確認できるように、共有スペースに理念を掲示している。また、より一層理解して頂く為、家族や地域の方に行事への協力や参加の呼びかけをしている。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩へ行き近隣の方たちと挨拶を交わす等、気軽に声をかけて頂けるような雰囲気作りを心がけている。また行事には、地域の方へ参加の呼びかけや協力の依頼等、交流を図れるよう取り組んでいる。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町の施設利用や文化祭、お祭り等の行事への参加している。また、紙芝居や民謡の慰問に来訪して頂き交流を図っている。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の高齢者の方にも、交流の場をもっていただけるよう、行事への参加の呼びかけをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価について、全スタッフで実施するよう取り組んでいる。又、評価の結果については、改善に向けて実践できるようミーティングで報告している。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	意見や要望を取り入れ、サービスの向上につなげるよう努めている。又、多くの家族の方に参加して頂けるよう働きかけている。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	町とは相談しやすい関係が出来ており、行事等には、声をかけ参加してもらっている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	今まで権利擁護や成年後見が必要なケースがない為、必要な時に支援できる体制が整っていない。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修会の参加や、ミーティングにて話し合いの場をもっている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約内容の他に考えられるリスクや、必要経費についても理解してもらえるよう十分に説明している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>月に一度介護相談員に来訪してもらい、相談に乗って頂いている。また、利用者や家族からの意見、苦情等はミーティングで話し合い改善するよう、努力している。</p>		
<p>14 家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>毎月担当スタッフよりお便りにて様子をお伝えし、体調変化等があった場合は電話や来所時に様子を伝えている。金銭管理については台帳に記載し、毎月明細書を送付している。</p>		
<p>15 運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族が来所された時や、運営推進会議で意見や要望、苦情等を言えるような雰囲気作りを心がけている。出された意見や要望、苦情等はミーティングで必ず報告し話し合いをしている。</p>		
<p>16 運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月に1度、スタッフが主導になりミーティングを行い、意見を出し合える機会を設けている。</p>		
<p>17 柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>緊急の受診、行事について、利用者の要望にそえるよう、シフトの調整を行なっている。</p>		
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>基本的にはユニットのスタッフを固定しているが、離職等によりユニット間の異動もやむを得ない場合がある。異動があった場合、往来しやすい環境である為、会いに行く等働きかけ利用者が寂しくないよう配慮している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用予定者、家族に見学にきてもらい、十分に説明している。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	事業所を見学してもらい、不安の無いような関わりをするよう配慮している。スタッフは情報共有し、本人の好むことへの提供を心掛けています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	人生経験豊富な高齢者より、教えていただくという基本姿勢で接するよう、努めている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	本人の要望やスタッフの思いを伝えることで、家族の思いを知ることができ、協力関係が築けている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	行事等の参加、協力をお願いし、一緒に過ごす時間を多く持つよう、努力している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人の希望に出来る限りそえるように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	手伝い等一緒に行う事で、互いに助け合う関係が出来ており、意欲の向上につながっている。また、利用者が孤立しないよう、スタッフが間に入り他者との関わりをもつきっかけ作りをしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用が終了された方にも行事の案内をし、気軽に足を運んで頂けるように働きかけている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	関わりの中で、本人の声に耳を傾け把握するよう努めている。困難な場合はその人の立場に立ち考え、家族からの情報や希望を取り入れ検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人、または家族や親類の方からも、情報を頂けるよう努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの生活リズムを理解し、その時の心身状態を観察している。出来ないと決めつけず出来る為にはどのようにしたら良いのかを探り、把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人の要望や家族の思いを理解し取り入れ、全職員でモニタリング、カンファレンスを行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	身体状況が変化した場合の見直しや、家族、本人の要望を取り入れ検討するようにしている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録や、スタッフの意見を取り入れ情報共有し、評価を実施している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	共用型通所サービスを開始後、グループホームの多機能性を活かした支援が来ている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	定期的に、読み聞かせのボランティアが来て下さったり、図書バスの利用をしている。その他に、フラダンスや民謡の慰問等の協力を頂いている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	リハビリ等、本人の要望にそえるよう心がけている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加していただくことにより、関係性がもたれている。包括支援センター定例会議に参加している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	法人内訪問診療を毎日(日曜、祭日を除く)受けており、関係を密にしている。日曜、祭日については、連絡をとれる体制にある。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症状について状態の変化等見られた場合、往診医と連携を取り、必要に応じ受診等の説明を行っている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師には毎日(日曜、祝日を除く)来てもらっている。また、看護師とスタッフは気軽に相談できる関係が出来ており、看護師と医師とも連携を密にとれる体制が確保されている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には、生活状況、既往歴等の情報を提供している。家族とは情報交換しながら対応している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	医師、家族、職員による説明、話し合いを行っている。また、状態の変化があるごとに、職員、医師が都度説明し、支援している。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人、家族の意向を大切に、随時確認しながら対応している。急変時には医療機関との連携を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>これまでの生活が出来るよう、生活環境や支援の内容等について情報提供するよう努めている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>ミーティングで話し合い、利用者のプライドやプライバシーを損ねない対応をするよう心がけている。</p>		
<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者が自己決定しやすい声かけをするよう心がけている。意思表示の困難な方には、声をかけ表情を見ながら対応している。</p>		
<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>1日の流れはおおよそ決まっているが、本人の意思や体調を確認しながら支援している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人希望により訪問理美容のサービス利用や、外出により馴染みの床屋や美容室を利用している。訪問サービスを、その時の思いや体調により受けられない方については、家族も理解され協力を得られている。</p>		
<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>調理の下準備はもちろんのこと、盛付けや片付けの作業は一緒に行なっている。利用者同士一緒に行なうことで、互いに刺激になり意欲向上につながっている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人の好む物は個別に購入し対応している。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	各利用者の排泄パターンを全スタッフが理解している。排泄チェック表を使用し適切な時間に誘導する等の対応をしている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人の意思を確認し、出来る限り希望する時間に入浴出来るようにしている。気の合う利用者同士入浴され、互いの背中を洗い合う等されている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中の活動を促し、安眠できるよう働きかけている。眠れない場合は、ホットミルクの提供や、スタッフと居間で話をする等の対応をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとり興味のあるものを把握し、意欲を引き出し楽しみながら行なえる事を提供するよう心がけている。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理できる利用者に対しては、所持してもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	本人の希望や、スタッフの働きかけにより、ドライブや外食、または自宅に行けるよう努めている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	本人が自宅や墓参り等希望された場合、家族に本人の希望を伝え話し合い、外出できるよう努めている。その他の要望が合った場合は、職員間で検討し対応するようにしている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	手紙や電話の希望があれば、気兼ねなく出来るよう努めている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問時間は決まっておらず、都合の良い時間帯に来ていただいている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	危険を認識できない利用者については、家族と話し合い承諾を得て、居室での臥床時のみ、サイドレールを使用している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	立地的な問題(近くに沼があり危険な所がある)と社会的問題(外部からの侵略を防ぐため)があり鍵をしている。		玄関にセンサーはついているが、音に慣れてしまい気付かない時もある。その際ユニット間での協力を得られているが、安心して開錠が出来るよう対応方法を検討していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中利用者が集まる居間は空にしないよう、スタッフ間で声かけをし見守るよう心がけている。夜間は、数時間ごとに、利用者の様子を確認している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	基本的に、注意の必要な物品については保管しているが、刃物など使用する際は、職員が見守りをする中を使用している。洗剤等は、未然に事故を防ぐ為、保管場所を決めている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	申し送りで全スタッフが周知出来るようにしている。事故が発生した場合は報告書を作成し、家族への説明を行い、今後の対策について話し合っている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	利用者のリスクについて確認し、ミーティングで話し合っている。また、緊急時対策マニュアルを用意している。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回避難訓練を利用者と行い、安全に暮らせるよう取り組んでいる。		地域の方に協力を得られるよう、取り組んでいる。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	リスクについては、都度家族に説明し、対応方法について話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	表情、顔色、様子等に変化が見られた場合は、医師、看護師に連絡し対応できるようにしている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	お薬情報のファイルを作成し、スタッフが内容を把握できるようにしている。誤薬を防ぐ為準備とチェックの2重確認、服薬については、飲み込むまでの確認をしている。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけに取り組んでいる。	体操や手伝いにより、適度に身体を動かしていただくよう働きかけ、毎日1回はプルーンや乳製品の提供をしている。また、管理栄養士の協力を得て食材に工夫をしている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	声掛けし、口腔ケア、義歯洗浄を行っている。利用者によっては夜間義歯をお預かりし、洗浄している。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量、水分量を毎日必ずチェックし、毎月体重測定を行っている。また、定期的に管理栄養士のアドバイスをもらっている。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	家族の同意をいただき、利用者、職員もインフルエンザ予防接種を受けている。毎日1回室内消毒を行い、湿度調整、換気をし、外出時にはうがい、手洗いを徹底している。また、法人内に感染委員会を設置している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>台所まわり、調理器の消毒に努めている。傷みやすい食材については、在庫を持たないよう配慮し新鮮な食材を提供するようにしている。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>明るい雰囲気を出迎えられるよう、玄関にベンチやプランターを設置し環境を整えている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節を感じてもらえるよう、利用者と一緒に装飾する物を作り食堂や居間に飾っている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>居間や食堂、窓際に、歌を聞ける場所や景色を眺めゆくつりと過ごせるスペースを作っている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入所の際、使い慣れた物を持参されるよう説明しているが、新品の物も多く見られる。その中で家族の写真を飾ったり、家具の他は使い慣れた日用品を使ったりと、本人が心地よく過ごせるようにしている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>温度、湿度を確認し、調整している。換気ファンを使用している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>利用者の状態を把握し、安全確保と自立への配慮に努めている。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>どうしたら分かりやすくなり、混乱や不安がなくなるか考え、対応している。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>ベランダにベンチの設置、東屋の活用、小規模の畑等、多数で楽しめるよう環境を整えている。</p>	

. サービスの成果に関する項目			
	項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p>	全スタッフ情報共有し、統一したケアが行なえるよう努めている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p>	勤務者で連携をとりながら、ゆったりと過ごすよう、努めている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>	利用者の生活習慣を把握しており、利用者のペースで過ごしていただいている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>	各利用者の笑顔や楽しむ姿が、見られる場面作りに努めている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>	利用者の要望に応えられるよう、スタッフ間で連携をとり対応するよう努めている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>	医師、看護師が毎日訪問している為、状態変化等があった場合は報告し、安心して過ごせるよう対応している。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>	利用者の状況や要望をスタッフが把握し、対応するよう努めている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p>	面会時や電話で、家族の思い等を聞きだすよう努めている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>	共用型通所サービスを通し、入居利用者と通所利用者との間に、馴染みの関係が出来ている。

. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	ご家族様の意向を受け止め、情報共有し、一層信頼関係を築き、よりよいケアを目指したい。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	よりよいケアをするために連携を図り、スタッフミーティング等で、各スタッフの思い、アイデアを取り入れていきたい。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	利用者の要望に出来るだけそえるよう、ケアに努めている。今後も家庭的な雰囲気の中に、個々の力を活かし活動性をもって暮らしていただけるように努めていく。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	家族との信頼関係を築き、本人、ご家族の要望にそえるよう努めていく。そして、満足していただけるよう、個別ケアに取り組んでいく。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

パワリハを導入し、デイケア専門職のアドバイスを頂きながら実践すると共に、利用者の持っている力を最大限に活かし、活動性のある生活を送っていただけるよう、取り組んでおります。
利用者同士一緒に取り組む事で、張り合いや助け合い、生き生きとした表情が見られ意欲向上に繋がっております。
また、身体維持をする為、往診医との連携を図っております。